

出力重視・出力支援：情報出力のための情報入手

－購入雑誌選定と学会ポスター発表支援－

宮本孝一

東京都健康長寿医療センター老年学情報センター

東京都健康長寿医療センターの職員用図書館である老年学情報センターで主に使われる資料は海外の医学雑誌である。外国雑誌を毎年約 100 誌ほど購読している。外国雑誌は価格値上げと為替の影響があり、限られた予算の中で毎年精査して、購読継続・中止の判断をする必要がある。

職員の雑誌継続希望を調べる調査に、診療科室・研究室単位での研究発表の活発さを反映する方法を昨年から試行しはじめた。研究発表が盛んである部署ほど雑誌の維持に影響が与えられるしくみである。よく読むから置いてほしい、ではなく、実際に使っているから…の重視。本来は、論文執筆・学会発表にその雑誌を盛んに引用文献として使う事実があるほど継続希望が反映されやすくなることを目指したいのだが、その方法はまだ考案できていない。

雑誌のコレクション構成(電子ジャーナル含む)を研究発表(情報の出力)重視で考えると同時に、研究発表(情報の出力)をサポートする支援も模索している。院内看護研修では口演発表用のスライド作成に関する講義を担当している。

さらに最近では、老年学情報センター内にある大判プリンターを使った学会ポスター作成支援をはじめた。学会ポスターの原稿づくりは職員各自の感性(自己流)で行われている。当医療センターは看護研究に力を入れていることもあり、はじめてポスター発表をする職員も多い。

学会ポスター原稿のレイアウト構成や文字サイズ、平面デザインの法則性などに関する多少の基礎知識があれば、可読性の高い効果的な学会ポスター原稿を短時間で作成できる。

老年学情報センターでは、①学会ポスター作成や平面デザインに関する図書の収集、②学会ポスター独特のレイアウトの要点(文字サイズ 全体構成など)・デザインの法則性・PowerPoint や大判プリンターの操作、に関するパンフレットの作成、③原稿作成とプリンター操作ミニ講習会の開催、を行っている。

図書館は情報入手(入力)のための施設であるが、図書館を通さずに電子化された学術情報を入力する手段も増えている。行動や発表(出力)に役立つことに価値を置く方向でのサービス展開を開拓する必要がある。

